



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView 3.0 インストールガイド

摘要

本書では、HPE OneView 仮想アプライアンスをインストールおよび更新するための手順を説明します。

部品番号: 5200-0302
2016年10月
第1版

© Copyright 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ（Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items）は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft®、Windows®、および Windows Server® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

VMware® は、VMware Inc.の登録商標です。

目次

1 インストール準備	4
1.1 アプライアンス VM およびホストの要件.....	4
1.2 仮想マシンを展開する場所.....	5
1.2.1 DL ベースのハイパーバイザー環境での展開.....	5
1.2.2 BladeSystem ハイパーバイザー環境での展開.....	6
1.3 高可用性の計画.....	6
2 ハイパーバイザーホストへの HPE OneView のインストール	7
2.1 ダウンロードの正当性および整合性の検証.....	7
2.2 VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール.....	7
2.2.1 OVA ファイルのダウンロード.....	8
2.2.2 OVA ファイルの展開.....	8
2.3 Hyper-V ホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール.....	9
2.3.1 zip ファイルのダウンロード.....	9
2.3.2 Hyper-V zip ファイルの展開.....	9
2.4 DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続.....	11
2.5 アプライアンスの起動タスクの完了.....	11
2.6 サービスアクセス認証の有効化または無効化.....	12
2.7 アプライアンスへの初回ログイン.....	12
2.8 アプライアンスネットワークの構成.....	12
2.8.1 HPE OneView の UI を使用したアプライアンスネットワークの構成.....	13
2.8.2 REST API を使用してアプライアンスネットワークを構成する.....	13
2.9 次のステップ.....	13
3 アプライアンスのアップデート	14
3.1 アプライアンスのアップデート手順.....	14
3.1.1 アップグレードパス.....	14
3.1.2 アップデートの時間.....	14
3.1.3 アップデートの前提条件.....	14
3.1.4 アップデートの手順.....	14
3.1.5 SHA-1 およびアップグレードのインストール.....	15
3.1.6 アップデート後のアプライアンスのバックアップ.....	16
4 サポートと他のリソース	17
4.1 Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	17
4.2 アップデートへのアクセス.....	17
4.3 Web サイト.....	18
4.4 カスタマーセルフリペア.....	18
4.5 ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	18
A アプライアンスの使用について	19
A.1 仮想アプライアンスコンソールの使用.....	19
A.2 アプライアンスコンソールへのアクセスの制御.....	19
A.2.1 コンソールアクセスの制限.....	20
A.3 VM アプライアンスを管理するためのベストプラクティス.....	20
A.4 アプライアンス以外の場所での UI ヘルプおよび REST API ヘルプの参照の有効化.....	21
B インストールの問題のトラブルシューティング	22
B.1 OVA ファイルを展開できない.....	22
B.2 ログインできない.....	22
B.3 アプライアンスがネットワークにアクセスできない.....	23
B.4 VM ホストのパフォーマンスが低下している.....	23
B.5 vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない.....	24

1 インストール準備

この章では、新しいアプライアンスで HPE OneView をインストールするための仮想マシン (VM) ホストの要件について説明します。

このガイドは、HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー用です。HPE Synergy 環境については、[HPE Synergy システム セットアップとインストールガイド](#) を参照してください。

リリースノートやユーザーガイドなど、HPE OneView 3.0 のその他のドキュメントについては、<http://www.hpe.com/info/oneview/docs> を参照してください。

1.1 アプライアンス VM およびホストの要件

HPE OneView は、以下のサポートされるハイパーバイザーホスト上で動作する仮想アプライアンスです。

表 1 サポートされるハイパーバイザーとバージョン

ハイパーバイザー	バージョン
VMware vSphere ESXi	<ul style="list-style-type: none">• 5.5• 5.5 Update 1• 5.5 Update 2• 5.5 Update 3• 6.0• 6.0 Update 1• 6.0 Update 2
Microsoft Hyper-V	Hyper-V は、Hyper-V の役割がインストールされている次の Microsoft Windows プラットフォームでサポートされます。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2012• Windows Server 2012 R2• Windows Hyper-V Server 2012• Windows Hyper-V Server 2012 R2

アプライアンス仮想マシン (VM) の最小要件は、以下のように変更されています。

- ProLiant G7-class 以降の CPU。
- 2 GHz 以上の仮想 CPU 4 個。
- 16GB のメモリ。
- シックプロビジョニングされた 160 GB のディスク容量。

仮想ディスクは、手動で拡張が可能で、ファームウェアリポジトリのサイズをデフォルトの 12GB から 100GB に拡張可能です (合計 275GB の最小ディスク容量が必要です)。仮想ディスクの拡張は、アプライアンスのインストール中に実施されることをお勧めします。詳細は、インストールまたはアップグレードの手順をご参照ください。

- 管理 LAN への接続。Hewlett Packard Enterprise では、管理用とデータ用に個別のネットワークを使用することを強くお勧めします。
- ハイパーバイザーホストが、以下の最小システム要件を満たしています。
 - [『Minimum system requirements for installing ESXi/ESX \(1003661\)』](#)、VMware Knowledge Base
 - [『Review Prerequisites for Installation』](#) (Hyper-V Server 2012、Hyper-V Server 2012 R2)、Microsoft TechNet

- 『Hyper-V をインストールして仮想マシンを作成する』（Windows Server 2012）、Microsoft Windows Server
- BIOS 設定で、電源管理オプションを以下のように構成します。
 - パワーレギュレーターをスタティックハイパフォーマンスモードに設定
 - 電力プロファイルを最大パフォーマンスに設定
- ネットワークタイムプロトコル（NTP）が適切に構成されている。

仮想アプライアンスの正常な動作には、正確な時刻同期が必要です。仮想アプライアンス上で確実に厳密な時間を取得するためのオプションとして、ネットワークタイムプロトコル（NTP）を利用した次の2種類が利用可能です。

ハイパーバイザー上の NTP ハイパーバイザーホストが NTP を利用するように、また、HPE OneView が時刻同期にハイパーバイザーホストを利用するように設定を行います。

HPE OneView の NTP HPE OneView が、3 種類以上の NTP を使用するように設定を行います。

注記: ハイパーバイザーホストが最低限必要なリソースを確保（予約または共有）するよう、お客様で設定していただく必要があります。ハイパーバイザーホスト上でリソースを確保する手順については、以下のリンクをご参照ください。

- メモリおよびプロセッサの設定（Microsoft Windows Server）
 - CPU リソースの割り当てとメモリリソースの割り当て（VMware vSphere ESX および vCenter Server Documentation Center）
-

1.2 仮想マシンを展開する場所

HPE OneView は、「[アプライアンス VM およびホストの要件](#)」(4 ページ)の要件を満たす ProLiant ハードウェアに展開できます。HPE OneView が管理または監視するハードウェアには、特定の制限が適用されます。

HPE OneView は、以下のハードウェア環境のハイパーバイザーに展開することができます。

- [ラックマウント型の ProLiant DL](#)
- [BladeSystem](#)

HPE OneView を使用して HP OneView が実行されているハイパーバイザーホストを管理する場合は、両方の環境に制限が適用されます。

- ① **重要:** HPE OneView の仮想アプライアンスは、管理機能専用のハイパーバイザー環境に展開し、本番ハイパーバイザー環境とは別にされることをお勧めします。
-

1.2.1 DL ベースのハイパーバイザー環境での展開

一般的に、DL ベースのハイパーバイザー構成環境を使用して HPE OneView を展開するのが、最も簡単な選択肢です。ベストプラクティスは、高可用性（HA）のハイパーバイザークラスター構成に展開することです。

DL サーバーの単一ハイパーバイザーホストを持つ非 HA 構成では、DL サーバーのハイパーバイザーホストを、管理対象サーバーハードウェアとして HPE OneView に追加する機能はサポートされていません。監視対象モードでホストを追加します。監視対象モードでは、誤って仮想アプライアンスの電源をオフにしてしまうことのないように、HPE OneView からハイパーバイザーホストの電源をオフにしないでください。

HPE OneView の仮想アプライアンスがホスト間で移行できる HA 構成では、上記の制限は依然として適用されますが、VM の移行を利用することによって回避することが可能です。この方

法は間違いを起こしやすい点に注意してください。仮想アプライアンスは、仮想アプライアンスが動作しているハイパーバイザーホストを検出できないため、未サポートの操作に関してユーザーに警告を出すことができません。

ベストプラクティスは、HPE OneView を使用して、クラスター内の DL ハイパーバイザーホストを監視することです（管理することではありません）。監視対象モードでは、HPE OneView を使用するホストの電源をオフにする前に、アプライアンスがそのホスト上で動作していないことを確認します。動作している場合は、HPE OneView アプライアンスを別のクラスターメンバーに移行する必要があります。

DL ハイパーバイザーホストが管理対象モードで HPE OneView に追加された場合、さらに以下の制限が適用されます。

- HPE OneView 仮想アプライアンスが現在実行されているハイパーバイザーホストのサーバープロファイルの適用または編集には、サーバーのハードウェアの電源をオフにする必要がありますので、お客様で実施していただくことはできません。
- サーバープロファイルを適用する前に、クラスター内の別のホストにアプライアンスを移行する必要があります。

1.2.2 BladeSystem ハイパーバイザー環境での展開

BladeSystem 構成では、管理対象エンクロージャーのサーバープロファイル接続管理に関する留意事項に加え、**DL サーバーと同じ制限**が課されます。

Bladesystem の場合、サーバープロファイルは、ブレードサーバーに対するすべてのネットワーク接続をカプセル化し、エンクロージャー内のインターコネクトモジュールと連携して機能します。

非 HA ハイパーバイザー BladeSystem 環境の単一エンクロージャー上にある ESXi ホストに、HPE OneView を展開する場合のベストプラクティスは、エンクロージャーの管理ではなく監視です。上記と同じ制限が引き続き適用されます。現在 HPE OneView アプライアンスが動作している VM ホストの電源をオフにしないでください。

単一エンクロージャー環境、またはエンクロージャーが管理対象モードで HPE OneView に追加されたマルチエンクロージャー環境の場合、エンクロージャーは、非 VC インターコネクトモジュールを含む必要があります。HPE OneView 仮想アプライアンスをサポートするハイパーバイザーホストのストレージおよびネットワーク接続は、これらの非 VC インターコネクトモジュールを使用する必要があります。サーバープロファイルの操作と電源の操作を実行する場合、その操作を実行している特定のホストで HPE OneView 仮想アプライアンスが実行されないようにしてください。

1.3 高可用性の計画

HPE OneView を高可用性（HA）構成で使用するには、ハイパーバイザーのドキュメントを参照し、特定の要件を確認してください。

VMware vSphere ESXi

<http://www.vmware.com/products/datacenter-virtualization/vsphere/high-availability.html>

Microsoft Hyper-V

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc753787.aspx>

2 ハイパーバイザーホストへの HPE OneView のインストール

HPE OneView は、次の形式で配布されます。

ハイパーバイザーホスト	ファイル形式
VMware vSphere ハイパーバイザー	<p>オープン仮想形式 (OVF) パッケージが含まれるオープン仮想アプライアンス (OVA) ファイルとしてパッケージ化されたものです。</p> <p>OVA の展開には、以下のいずれかを用いることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• ホストシステムにインストールされた VMware vSphere クライアント (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアント• コマンドラインインターフェイス (CLI)• REST API <p>このガイドでは、ホストシステムにインストールされた VMware vSphere クライアント (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアントを使用して OVA を展開する方法を説明します。このガイドを利用した OVA ファイルの展開には、以下が必要となります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ホストシステムにインストールされた VMware vSphere クライアント (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアント。2. HPE OneView をインストールするための VMware vCenter サーバーへのアクセス。
Microsoft Hyper-V ハイパーバイザー	<p>イメージ zip ファイルとしてパッケージ化されたもの。</p> <p>この zip ファイルを使用して HPE OneView をインストールするには、Windows Server に Hyper-V の役割がインストールされている必要があります。</p>

2.1 ダウンロードの正当性および整合性の検証

Hewlett Packard Enterprise Software Depot のウェブサイト <http://software.hpe.com> から HPE OneView アプライアンスファイルをダウンロードする場合、お使いのブラウザの HTTPS 接続は信頼されているセキュリティ証明書を使用するため、HPE の仮想アプライアンスイメージを信頼できます。

さらに、無償の GNU プライバシーガード (GPG) ツールを使用して、ファイルの正当性および整合性を検証できます。

- `gpg --verify < ファイル名 >.ova.sig < ファイル名 >.ova`
- `gpg --verify < ファイル名 >.zip.sig < ファイル名 >.zip`

注記: このデジタル署名の確認手順は、アップグレードのインストールには必要ありません。アップグレードファイル (*.bin ファイル) がすでにデジタル署名されており、デジタル署名はアップグレード手順の間に自動的に検証されます。

詳しい検証手順については、次の web ページをご参照ください。 <http://www.hpe.com/downloads/codeverify>

2.2 VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

VMware vSphere ハイパーバイザーホストに HPE OneView をインストールするには、以下の手順に従ってください。

2.2.1 OVA ファイルのダウンロード

物理メディアに OVA ファイルがない場合は、<http://software.hpe.com> にある Hewlett Packard Enterprise Software Depot から OVA ファイルをダウンロードします。

OVA ファイルのサイズは約 3.5 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Hewlett Packard Enterprise Software Depot が提供するダウンロードマネージャなど、ダウンロードの再開がサポートされるダウンロードマネージャを使用されることをお勧めします。

1. ハイパーバイザークライアントが実行されているシステムでブラウザを開きます。
2. <http://software.hpe.com> にある Hewlett Packard Enterprise Software Depot にアクセスし、**[HPE OneView]** を選択します。

注記: Hewlett Packard Enterprise Software Depot のアカウントをお持ちの場合は、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。まだ登録していない場合は、登録を求めるメッセージが表示されます。

3. OVA ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。
vSphere クライアントが実行されているシステムにローカルディレクトリが配置されているか、Web アドレスを使用してローカルディレクトリにアクセスできる必要があります。

注記: OVA ファイルは電子的に署名されています。ダウンロードの信頼性と整合性は、<http://www.hpe.com/downloads/codeverify> にある手順に従いお客様で検証いただくことも可能です。詳しくは、「[ダウンロードの正当性および整合性の検証](#)」(7 ページ)を参照してください。

2.2.2 OVA ファイルの展開

1. VMware vSphere クライアントを起動し、vCenter にログインします。
2. メニューから、**[ファイル]**→**[OVF テンプレートのデプロイ]**を選択し、**[OVF テンプレートのデプロイ]**ウィザードを起動します。
 - a. **[ソース]**画面で、以下のいずれかの情報を指定します。
 - OVA ファイルへのパス
 - OVA ファイルの Web アドレス (URL) (Web サーバー経由でこのファイルにアクセスできるようにしている場合)
 - b. **[OVF テンプレートの詳細]**画面の情報を確認します。
 - c. **[名前と場所]**画面で、インベントリフォルダー内で一意である、展開されたテンプレートの名前と場所を入力し、インベントリ場所を選択します。
 - d. **[ホスト/クラスター]**画面で、展開されたテンプレートを実行するホストまたはクラスターを選択します。
 - e. **[ストレージ]**画面で、VM ファイルの保存先を選択します。
 - f. **[ディスクのフォーマット]**画面で、仮想ディスクの **[シックプロビジョニング]**を選択します。
また、**[Eager Zeroed]** を選択されることをお勧めします。

- g. **[ネットワークのマッピング]**画面で、管理 LAN に接続できるネットワークを選択します。
- ① **重要:** **[シックプロビジョニング]**が必須なのは、シンプロビジョニングを選択すると、VM ホストでディスク容量が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止されるためです。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があり、解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。
-

- h. **[終了準備の完了]**画面で、選択したオプションを確認します。必要に応じて、**[戻る]** ボタンを使用して変更を加えます。**[終了]**をクリックし、テンプレートを完了して、展開を開始します。

展開が完了すると、VM を使用できます。

3. ホストに NTP を構成するか、アプライアンスが NTP サーバーを参照するように構成します。

4. オプション：アプライアンスのファームウェアリポジトリのサイズを 12GB から 100GB に増加します。

vSphere クライアントで仮想マシンを選択、右クリックして、設定の編集を選択します。次に、仮想ディスクのサイズを 275GB に増加します。

仮想マシンの電源を初めて入れたときに、HPE OneView の **[ファームウェアバンドル]** 画面をご覧くださいと、ファームウェアのレポジトリが 100GB になっているのを確認することができます。

5. **[サマリ]** タブで、**[仮想マシンのパワーオン]** をクリックします。**[コンソール]** タブをクリックし、アプライアンスの開始を監視します。

アプライアンスの電源が入れられてからブラウザー接続を受け入れるための準備ができるまで、ハードウェアによっては約 10 分かかります。この間、vSphere 仮想コンソールには、「Please wait while the appliance starts」というメッセージが表示されます。起動が完了すると、仮想コンソールに **[HPE OneView EULA]** 画面が表示されます。

6. アプライアンスに接続するには、「[DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続](#)」(11 ページ)を参照してください。

2.3 Hyper-V ホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

Microsoft Hyper-V ホストに HPE OneView 仮想アプライアンスをインストールするには、以下の手順に従ってください。

2.3.1 zip ファイルのダウンロード

物理メディアに Hyper-V zip ファイルがない場合は、Hewlett Packard Enterprise Software Depot から Hyper-V zip ファイルをダウンロードします。

zip ファイルは約 3.5 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Hewlett Packard Enterprise Software Depot が提供するダウンロードマネージャなど、ダウンロードの再開がサポートされるダウンロードマネージャを使用されることをお勧めします。

1. ハイパーバイザークライアントが実行されているシステムでブラウザーを開きます。
2. <http://software.hp.com> にある Hewlett Packard Enterprise Software Depot にアクセスし、HPE OneView を選択します。

注記: Hewlett Packard Enterprise Software Depot のアカウントをお持ちの場合は、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。まだ登録していない場合は、登録を求めるメッセージが表示されます。

3. zip ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。

注記: zip ファイルは電子的に署名されています。信頼性と整合性は、<http://www.hpe.com/downloads/codeverify> にある手順に従いお客様で検証いただくことも可能です。

2.3.2 Hyper-V zip ファイルの展開

1. Hyper-V ホストからアクセスできる場所に Hyper-V イメージの zip ファイル (HPEOneView_<バージョン番号>.zip) を解凍します。

2. Hyper-V マネージャーを起動します。Hyper-V ホストを右クリックし、**[仮想マシンのインポート]**を選択します。
 3. **[仮想マシンのインポート]** ウィザードで、Hyper-V イメージ zip ファイルの解凍場所へ移動し、Snapshots、Virtual Hard Disks、および Virtual Machines という名前のディレクトリを見つけます。この 3 つのディレクトリの親ディレクトリを選択します。
 4. ウィザードの手順を進めて、アプライアンス仮想マシンをインポートします。
-
- ① **重要:** **[仮想マシンをコピーする (新しい一意な ID を作成する)]** オプションを必ず選択してください。
-
5. ホスト要件 (**「アプライアンス VM およびホストの要件」(4 ページ)**を参照) を満たすように VM が構成されていることを確認し、シックプロビジョニングをセットアップして、VM ホストのネットワークアダプターをセットアップします。
VM の設定を編集する場合は、アプライアンス VM を右クリックし、**[設定]**を選択します。
 - **アプライアンス VM およびホストの要件について:** **「アプライアンス VM およびホストの要件」(4 ページ)**を参照してください。
 - **シックプロビジョニング:** VM のインポート後は、HYPER-V で固定サイズのディスクを使用します。**[設定]**を選択し、仮想ハード ディスクを選択します。現在のディスクを編集し、**[変換]**を選択し、**[容量固定]**を選択します。VM ハードディスクのサイズを、作成した新しい固定サイズのディスクに変更します。
 - ① **重要:** **[シックプロビジョニング]**が必須なのは、シンプロビジョニングを選択すると、VM ホストでディスク容量が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止されるためです。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があり、解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。
 - **ネットワークアダプターについて:** ハイパーバイザーの UI を使用して、VM ネットワークアダプターを設定します。アプライアンスは、管理 LAN 上で 1 つの NIC をサポートします。
通常、ネットワーク構成に応じて、ネットワークアダプターを 1 つ以上の仮想スイッチに接続します。
 - ① **重要:** VLAN と VLAN 識別子を使用しない場合には、VLAN ID ボックスのチェックを必ず外してください。
-
6. オプション: アプライアンスのファームウェアリポジトリのサイズを 12GB から 100GB に増加します。
Hyper-v クライアントで、仮想ハード ディスクの編集ウィザードを選択し、仮想ディスクのサイズを 275GB に増加します。
仮想マシンの電源を初めて入れたときに、HPE OneView の **[ファームウェアバンドル]**画面をご覧くださいと、ファームウェアのレポジトリが 100GB になっているのを確認することができます。
 7. 仮想アプライアンスの電源を入れる前に、VM ホストシステムの日時が正しく設定されていることを確認します。VM ゲストは VM ホストシステムの時刻と同期するため、VM ホストシステムでは、NTP などのツールを使用して正確な時刻を維持してください。VM ホストの時間が適切に設定されていない場合は、アプライアンスの起動時に以下のメッセージが表示されます。

```
The time and date on your hypervisor appears to be incorrect. Please power off your appliance, correct the time and date on your hypervisor, and power on your appliance.
```

この問題が発生した場合は、メッセージの指示に従ってください。

8. 仮想マシンの電源を初めてオンにします。
Hyper-V Manager で、アプライアンス VM を右クリックし、電源を入れます。
9. コンソールにアプライアンスのライセンスおよびサポートの画面が表示されます。これで、初めてアプライアンスにログインできます。

2.4 DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続

アプライアンスに初めて接続するときは、ホスト環境がどのように構成されているかに応じて、以下のどちらかの方法を使用します。

DHCP を使用

VMware vSphere

vSphere 仮想コンソールの **[サマリ]** タブを使用して、アプライアンスの初期 IP アドレスを確認します。次に、ローカルコンピューターで実行されているブラウザで、アプライアンスの IP アドレスを使用してアプライアンスに接続します。

Microsoft Hyper-V

管理 LAN 上で DHCP とダイナミック DNS を使用できる場合、アプライアンスは起動時に `ci-<MAC アドレス >` の形式で DNS 名を登録します。アプライアンスのイーサネット MAC アドレスについては、Hyper-V Manager の **[ネットワーク]** タブを使用して確認できます。ブラウザのアドレスバーで名前を使用します。例：

```
https://ci-<MAC アドレス >.example.com
```

ダイナミック DNS がない場合は、仮想コンソールを使用してアプライアンスに接続します。Hyper-V Manager で **接続** を選択し、アプライアンスコンソールに接続して、最初のセットアップ手順を実行します。

DHCP を使用しない

VMware vSphere

仮想コンソールで実行されているブラウザで、vSphere 仮想コンソールを使用してアプライアンスに接続します。**[Ctrl]+[Alt]** キーを押して、仮想コンソールを終了します。

Microsoft Hyper-V

Hyper-V Manager で **接続** を選択し、アプライアンスコンソールに接続して、最初のセットアップ手順を実行します。

割り当てられたホスト名または IP アドレスを使用して、アプライアンスに接続します。

注記: ネットワークの問題があり、アプライアンスに接続できない場合は、ハイパーバイザーの仮想コンソールを使用してアプライアンスにログオンし、ネットワーク設定を確認または変更します。

2.5 アプライアンスの起動タスクの完了

アプライアンスを初めて起動するには、以下の手順を完了します。

1. まだアプライアンスに接続していない場合は、「[DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続](#)」(11 ページ)で説明されているいずれかの方法を使用してアプライアンスに接続します。

注記: REST API を使用して、残りのインストール手順を完了することもできます。詳細は、『[HPE OneView REST API スクリプトのヘルプ](#)』で、「初期構成に関するクイックスタート」をご参照ください。

2. **[HPE OneView EULA]** 画面で、エンドユーザーライセンス契約を確認し、**[同意する]** (Agree) をクリックして続行します。

注記: **[同意しない]** (Disagree) をクリックすると、インストールプロセスがキャンセルされます。

3. **[HPE OneView サポート]**画面で、アプライアンスへのサービスアクセス認証を **[有効]**にするか、**[無効]**にするかを決定します。アプライアンスへのサービスアクセスを無効にした場合の影響については、『**HPE OneView ユーザーガイド**』を参照してください。
4. **[OK]** をクリックして次に進みます。

2.6 サービスアクセス認証の有効化または無効化

アプライアンスを最初に起動したときに、現場での認定サポート担当者によるアクセスを有効または無効にすることを選択できます。デフォルトでは、現場の認定サポート担当者は、アプライアンスコンソールを介してシステムにアクセスし、報告を受けた問題を診断できます。

サポートアクセスは root レベルのシェルです。これにより、現場の認定サポート担当者は、アプライアンス上の問題をデバッグしたり、パスワードリセット用のチャレンジレスポンス方式に似た方法を使用してワンタイムパスワードを取得したりできます。

インフラストラクチャ管理者は、アプライアンスの初期構成後はいつでも、以下の手順で UI からサービスアクセスを有効化または無効化できます。

必要条件

- 必要な最小権限：インフラストラクチャ管理者

手順 1 認定されたサービスアクセスの有効化または無効化

1. メインメニューから **[設定]** を選択します。
2. **[セキュリティ]** パネルで **[編集]** アイコンをクリックします。
[セキュリティの編集] ウィンドウが開きます。
3. **[サービスコンソールアクセス]** の適切な設定を選択します。
 - コンソールへのアクセスを禁止する場合は、**[無効]** を選択します。
 - コンソールへのアクセスを許可する場合は、**[有効]** を選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

また、`/rest/appliance/settings` REST API を使用してサービスアクセスを有効または無効にできます。

注記: アクセスを有効にすることをお勧めします。無効にすると、認定サポート担当者がアプライアンスにアクセスして問題を修正できない可能性があります。

2.7 アプライアンスへの初回ログイン

アプライアンスを起動する場合、デフォルトの認証情報を使用してアプライアンスにログインします。通常、この作業は、VM のコンソールウィンドウで実行される、特別に制限されたブラウザを使用して行われます。

1. アプライアンスに初めてログインする場合、以下のデフォルトの認証情報を使用します。
ユーザー名： **Administrator**
パスワード： **admin**
デフォルトの認証情報を使用してログインできない場合は、「**ログインできない**」(22 ページ)を参照してください。
2. デフォルトのパスワードを、8 文字以上の任意のパスワードに変更します。

2.8 アプライアンスネットワークの構成

プロセスの次の手順は、UI を使用してアプライアンスネットワークを構成することです。

注記: Microsoft Hyper-V の VM では、仮想コンソールからアプライアンスネットワークを構成する必要がありますが、これは、Linux の統合サービスでは、管理ネットワークで DHCP が利用できる場合仮想マシンの IP アドレスレポートを行わないためです。

2.8.1 HPE OneView の UI を使用したアプライアンスネットワークの構成

最初に管理者としてログインした後、**[アプライアンスネットワーク]** (Appliance Networking) 画面が表示されます。

この画面のほとんどの情報は自動的に設定されます。ただし、以下の情報を入力する必要があります。

- **アプライアンスホスト名 (Appliance Host Name)**。アプライアンスホスト名のフィールドにはデフォルトの名前が表示されますが、このデフォルト名を任意のホスト名に変更することができます。

注記: DNS (ドメインネームサービス) を直接的または間接的に指定する場合、完全修飾ホスト名を指定する必要があります。

- **IPv4 アドレス**。HPE OneView では、IPv4 アドレスが必要です。アプライアンスに IPv6 アドレスを構成し、そのアドレスを使用してブラウザーからアプライアンスに接続できますが、HPE OneView では、管理対象リソースとの通信に IPv4 が必要となります。
- **DNS サーバーアドレス**。DNS を使用する場合、ここで DNS サーバーのアドレスを入力します。
- **IPv6 アドレス情報**。アドレスの割り当てに IPv6 を使用する場合は、Manual または DHCPv6 を選択します。

アプライアンスネットワーク設定の構成で使用可能なオプションについて詳しくは、**?** をクリックし、ヘルプにアクセスしてください。

2.8.2 REST API を使用してアプライアンスネットワークを構成する

アプライアンスネットワークを初めて構成するためのすべてのネットワーク設定が含まれる `/rest/appliance/network-interfaces` API を使用して、REST API の POST 操作を使用できます。詳しくは、**?** をクリックして『REST API スクリプトのヘルプ』を参照するか、『HPE OneView REST API リファレンス』を参照してください。これらのドキュメントは、<http://www.hpe.com/info/oneview/docs> から入手できます。

2.9 次のステップ

インストールとアプライアンスネットワークを構成が完了したら、次の手順は、データセンターのリソースをアプライアンス管理の下に置くことです。初回の構成タスクについては、オンラインヘルプおよび『**HPE OneView ユーザーガイド**』で説明されています。ユーザーガイドには、サンプルのデータセンターを構成するための手順ごとの図解も含まれています。

3 アプライアンスのアップデート

3.1 アプライアンスのアップデート手順

3.1.1 アップグレードパス

HPE OneView の 1.20 以降のどのバージョンからでも、バージョン 3.0 に直接アップグレードできます。

3.1.2 アップデートの時間

アップデートには、アプライアンスの再起動が必要で、再起動などアップデートの完了には約 60 分を要します。

3.1.3 アップデートの前提条件

注記: Microsoft Internet Explorer (IE) は、4 GB より大きいファイルを転送できません。これらのファイルには、Mozilla Firefox または Google Chrome ブラウザーを使用して、アップデートまたはパッチを HPE OneView にアップロードするか、REST API を使用します。REST API は、HPE OneView のコミュニティでサポートされている **Powershell** または **Python** の OneView 向モジュール群を使用して簡単にアクセスできます。

注記: アップデートには、重要なファームウェア更新の入った ProLiant 用カスタムソフトウェアパックが含まれます。このアップデートをインストールする前に、アプライアンスファームウェアのバンドルレポジトリに 3.4 GB 以上の空き容量があることを確認します。既存の SPP を削除する場合、まず、現在どのサーバードプロファイルにも使用されていないことを確認します。

- VM ホストとそのリソースが、**HPE OneView 3.0 の最小要件**を満たしています。
 - インフラストラクチャ管理者権限を持つユーザーとしてアプライアンスにログインする必要があります。
 - 他のユーザーがアプライアンスにログインしておらず、またアップデート中に誰もログインしていません。
 - アップデートプロセスを開始する前に、アプライアンスの UI または REST API を使用してアプライアンスをバックアップします。
 - アプライアンスの UI : **[Settings]→[Backup]→[Actions]→[Create backup]** および **[Settings]→[Backup]→[Actions]→[Download backup]**
 - REST API : `/rest/backups` および `/rest/backups/archive`
-

注記: サポートが必要な場合は、HPE OneView のオンラインヘルプトピック『アプライアンスのバックアップ』を参照してください。

3.1.4 アップデートの手順

アプライアンスをバージョン 3.0 に更新するには、次の手順を実行します。

1. 『HPE OneView30 アップデート』（< ファイル名 >.bin）イメージファイルを Hewlett Packard Enterprise Software Depot（<https://www.software.hpe.com>）からお使いのローカルコンピューターにダウンロードします。
2. 以前のバージョンから HPE OneView 3.0 へアップグレードする場合は、CPU コア数と HPE OneView 3.0 の最小要件を満たすよう、メモリを増やす必要があります。
 1. アプライアンスの電源をオフにします。

2. vSphere クライアントで仮想マシンを選択、右クリックして、設定の編集を選択します。
HYPER-Vのクライアントで、仮想ハード ディスクの編集ウィザードを選択します。
3. CPU コア数を 2 から 4 に増加します。
4. メモリサイズを 10GB から 16GB に増加します。
5. **[OK]** をクリックして設定を保存します。
6. アプライアンスの電源をオンにします。
3. アプライアンスにログインし、**[設定]→[アプライアンス]→[アクション]→[アプライアンスのアップデート]**の順に選択します。
4. ドラッグアンドドロップまたはブラウズによって、< ファイル名 >.bin ファイルをアプライアンス UI 画面に移動します。

注記: サポートが必要な場合は、HPE OneViewのオンラインヘルプトピック『アプライアンスのアップデート』を参照してください。

5. **[アップロードおよびインストール]**をクリックして、更新プロセスを開始します。

3.1.5 SHA-1 およびアップグレードのインストール

暗号化ハッシュアルゴリズム SHA-1 で作成された HTTPS 通信の証明書は廃止予定で、2017 年 1 月以降は、HPE OneView と通信を行うウェブブラウザやその他ソフトウェア製品の最新バージョンでのサポートはありません。これらの旧証明書は、SHA-256 等のより安全性に優れたデジタル署名のハッシュを使用するようアップグレードが必要となります。

HPE OneView 3.0 を新規でインストールすると、SHA-256 のデジタル署名をデフォルトで生成します。HPE OneView 3.0 は、State Change Message Bus (SCMB) に対しても、SHA-256 証明書を生成します。

HPE OneView の証明書署名要求 (CSR) を生成する際は、お使いの認証局 (CA) が SHA-256 デジタル署名に対応した証明書の発行を行っているかをご確認ください。ほとんどの認証局では、すでに規定の電子署名アルゴリズムとして SHA-256 に対応しています。

HPE OneView の旧バージョンからアップグレードをされる場合は、既存アプライアンスの自己署名証明書、認証局発行の証明書、または SCMB 証明書が、SHA-256 証明書に対応していない場合がありますのでご注意ください。最新のソフトウェアとの互換性を確かなものにするため、お客様にてお使いの証明書の種類を確認し、SHA-256 による署名のないものは更新する必要があります。

お使いの証明書の確認は、ブラウザで現在の HPE OneView 証明書をご覧いただき、証明書のデジタル署名アルゴリズム (ブラウザの「拇印」または「指紋」) をご確認ください。証明書に SHA-256 署名がない場合は、おそらく SCMB 証明書にも SHA-256 署名はありません。

HPE OneView 3.0 へのアップグレード後は、ウェブサーバー証明書の更新が必要になる場合があります。

- お使いのアプライアンスが、HPE OneView から生成された自己署名証明書を使用している場合は、自己署名証明書の再生成を明示的に要求する必要があります。
 1. HPE OneView のメインメニューから、**[設定]+[セキュリティ]**の順に選択します。
 2. **[アクション]+[自己署名証明書の作成]**を選択します。
- 認証局発行の証明書をお使いの場合は、HPE OneView アプライアンスから、新規 CSR を作成していただく必要があります。
 1. HPE OneView のメインメニューから、**[設定]+[セキュリティ]**の順に選択します。
 2. **[アクション]+[自己署名証明書リクエストの作成]**の順に選択し、新規 CSR を作成します。
 3. その CSR を使用して、SHA-256 署名付き、外部認証局発行の新規証明書を取得します。
 4. アプライアンスに、取得した新規証明書をインポートします。

- a. HPE OneView のメインメニューから、**[設定]+[セキュリティ]**の順に選択します。
- b. **[アクション]+[証明書のインポート]**の順に選択し、新規証明書をインポートします。

Hewlett Packard Enterprise では、2017 年 1 月に予定されている主要なブラウザとソフトウェアの SHA-1 サポート終了前に、HPE OneView のバージョン 3.0 へのアップグレードと、上記手順で証明書更新をされることを強くお勧めいたします。

主要ブラウザの SHA-1 サポート終了までに証明書を更新されない場合は、引き続き SHA-1 をサポートする旧バージョンのブラウザをお使いいただき、HPE OneView のアップグレードと上記の証明書更新を行っていただく必要があります。

SCMB に対する AMQP 証明書の更新

HPE OneView からの外部メッセージバス通信を受信するソフトウェア製品では、HPE OneView から生成された AMQP クライアント証明書を使用します。

HPE OneView 3.0 と上記手順により生成された AMQP サーバーおよびクライアントの証明書は、SHA-256 で署名されます。

AMQP ベースの SCMB を介した HPE OneView 通信を受信する製品、外部ソフトウェアまたはスクリプトをお使いの場合は、HPE OneView を 3.0 へのアップグレードの際に、AMQP サーバーとクライアントの証明書更新が必要になる場合があります。

手順 2 AMQP 証明書の更新

1. 以下の REST API を使用して、HPE OneView の AMQP サーバーとクライアント証明書を再生成します。

```
DELETE /rest/certificates/ca/rabbitmq_readonly
```

2. 以下の REST API を使用して、AMQP クライアント証明書とプライベートキーをダウンロードします。

```
GET /rest/certificates/client/rabbitmq/keypair/default
```

3. 以下の REST API を使用してルート CA 証明書をダウンロードします。

```
GET /rest/certificates/ca
```

4. ルート CA 証明書、AMQP クライアント証明書、プライベートキーを、AMQP クライアントを使用する製品にインポートします。

『**HPE OneView ユーザーガイド**』にある『メッセージバスを使用してサブスクリバにデータを送信』をご参照ください。

3.1.6 アップデート後のアプライアンスのバックアップ

アプライアンスを HPE OneView バージョン 3.0 にアップグレードした後は、忘れずに新しいバックアップファイルを作成してください。3.0 のアプライアンスを復元する必要がある場合は、3.0 アプライアンスで作成されたバックアップファイルからのみ実行できます。

自動バックアップの詳細については、HPE OneView オンラインヘルプの「自動リモートバックアップの設定」を参照してください。

4 サポートと他のリソース

次のトピックでは、HPE サポートセンターの情報と、HPE OneView を使用する上で役立つその他のリソースおよびドキュメントを紹介します。

4.1 Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスを受けるには、Web サイト「Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide」に移動します。
<http://www.hpe.com/assistance>
- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトに移動します。
<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- 増設した製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

4.2 アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。製品のドキュメントを確認し、推奨されるソフトウェアアップデートの方法を特定します。
 - 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。
 - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[メールニュース配信登録]** ページ：
<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>
 - Software Depot の Web サイト：
<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>
 - お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[More Information on Access to Support Materials]** ページに移動します。
<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>
-
- ① **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。
-

4.3 Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
OneView のドキュメント	http://www.hpe.com/info/oneview/docs
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) のストレージ互換性マトリックス	http://www.hpe.com/storage/spock
HPE Virtual Connect のユーザーガイド HPE Virtual Connect のコマンドラインリファレンス	http://www.hpe.com/info/virtualconnect
HPE 3PAR StoreServ Storage	http://www.hpe.com/jp/storage
HPE Integrated Lights-Out	http://www.hpe.com/jp/servers/ilo
HPE BladeSystem エンクロージャー	http://www.hpe.com/servers/bladesystem
HPE ProLiant サーバーハードウェアの Web サイト	<ul style="list-style-type: none">一般的な情報：http://www.hpe.com/info/servers-jaBL シリーズサーバーブレード：http://www.hpe.com/info/blades-jaDL シリーズラックマウント型サーバー：http://www.hpe.com/servers/dl-ja
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers

4.4 カスタマーセルフリペア

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

CSR について詳しくは、お近くのサービスプロバイダーにお問い合わせになるか、次の CSR の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/selfrepair>

4.5 ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。フィードバックの送信時には、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙にある改版日をご記載ください。オンラインヘルプの内容については、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、および法的な注意事項ページにある改版日をご記載ください。

A アプライアンスの使用について

A.1 仮想アプライアンスコンソールの使用

仮想アプライアンスコンソールには、以下のことをサポートする制限付きのブラウザインターフェイスがあります。

- DHCP 以外の環境でのアプライアンスのネットワーク構成
- 管理者アカウントのパスワードのリセット要求
- 認定サポート担当者向けの高度な診断

初めてアプライアンスにアクセスして、アプライアンスのネットワークを構成するには、仮想アプライアンスコンソールを使用します。仮想アプライアンスコンソールを使用すると、DHCP 以外の環境のネットワークにアプライアンスをブートストラップすることができます。仮想アプライアンスコンソールは、ブラウザの全機能を装備した代替のものではありません。

仮想アプライアンスコンソールがブラウザセッションを開始すると、ブラウザはフルスクリーンで表示されます。タブを追加することはできません。ソフトウェアアップデートやファームウェアバンドル（SPP）のアップロードなど、ダイアログボックスからファイルを選択する必要のある操作は実行できません。「進む」や「戻る」といった基本的なブラウズ操作のみを実行できます。

表 2 仮想アプライアンスコンソールのキーの組み合わせ

キーの組み合わせ	機能
[Alt]-[←]	（[Alt] と左矢印） 前に戻る
[Alt]-[→]	（[Alt] と右矢印） 次に進む
[Ctrl]-[+]	（[Ctrl] とプラス記号） 拡大
[Ctrl]-[-]	（[Ctrl] とハイフン） 縮小
[Ctrl]-[0]	（[Ctrl] とゼロ） ズームのリセット
[Ctrl]-[F]	検索
[Ctrl]-[R] または [F5]	再ロード/更新
[Ctrl]-[Alt]-[Backspace]	ブラウザインターフェイスの再起動

A.2 アプライアンスコンソールへのアクセスの制御

ハイパーバイザー管理ソフトウェアを使用して、アプライアンスへのアクセスを制限します。これにより、未認可のユーザーがパスワードリセットおよびサービスアクセス機能にアクセスできなくなります。「[コンソールアクセスの制限](#)」(20 ページ)を参照してください。

一般的に、コンソールにアクセスする場合の正当な使用理由は、次のとおりです。

- ネットワーク構成に関する問題のトラブルシューティング
- アプライアンスの管理者パスワードのリセット
- 現場での認定サポート担当者によるサービスアクセスの許可

仮想アプライアンスコンソールはグラフィカルコンソールに表示され、パスワードのリセットと HPE サービスのアクセスでは非グラフィカルコンソールを使用します。

手順 3 あるコンソールから別のコンソール（VMware vSphere）への切り替え

1. 仮想アプライアンスコンソールを開きます。
2. **[Ctrl]+[Alt]** キーを押したままにします。
3. スペースバーを押して離します。
4. 非グラフィカルコンソールを選択するには **[F1]** キーを押して離し、グラフィカルコンソールを選択するには **[F2]** キーを押して離します。

A.2.1 コンソールアクセスの制限

ハイパーバイザー自体の安全な管理方法によって、コンソールアクセスを仮想アプライアンスに制限できます。

VMware vSphere の場合、この情報は、次の VMware の Web サイトから入手できます。

<http://www.vmware.com>

特に、vSphere の Console Interaction 権限と、VMware の役割と権限を管理するためのベストプラクティスに関するトピックを検索して参照してください。

A.3 VM アプライアンスを管理するためのベストプラクティス

仮想コンソールから VM アプライアンスを管理するため、次のガイドラインをお勧めします。

VMware vSphere 仮想マシンを管理するためのベストプラクティス

行うこと

- シックプロビジョニングを使用する。（必須）
- 共有および予約を使用して適切な CPU パフォーマンスを確保する。

行わないこと

- シンプロビジョニングを使用する。
- VMware Tools をアップデートする。VMware Tools に **[Out of Date]** または **[UnManaged]** と表示されている場合、ツールは正しく動作しています。ツールは使用可能で動作しているので、これらのステータスメッセージは問題ではありません。VMware Tools は、HPE OneView ソフトウェアのアップデートごとにアップデートされます。
- VM スナップショットに戻る（認定サポート担当者から指示された場合のような、特別な状況でない限り）。
- HPE OneView アプライアンスが NTP を使用するように構成されているときに、vSphere クライアントの **[ホストとゲスト時間を同期]** オプションを設定する。HPE OneView は、ネットワークの構成時に適切な **[ホストとゲスト時間を同期]** 設定を自動的に設定します。HPE OneView が NTP サーバーを使用するように構成されていると、**[ホストとゲスト時間を同期]** オプションは無効になります。HPE OneView が NTP サーバーを使用するように構成されていない場合は、ホスト VM クロックに同期して **[ホストとゲスト時間を同期]** オプションが有効になります。その場合は、NTP を使用するように VM ホストを構成します。
- VM に割り当てられているメモリ容量を削減する。

Microsoft Hyper-V 仮想マシンを管理するためのベストプラクティス

行うこと

- 固定サイズを使用する。

行わないこと

- 統合サービスをアップデートする。
- VM チェックポイントに戻る（認定サポート担当者から指示された場合のような、特別な状況でない限り）。
- VM に割り当てられているメモリ容量を削減する。
- 動的メモリを有効にする。[https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh831766\(v=ws.11\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh831766(v=ws.11).aspx) を参照してください。

A.4 アプライアンス以外の場所での UI ヘルプおよび REST API ヘルプの参照の有効化

アプライアンス以外の場所にある HPE OneView ヘルプシステムは、REST API スクリプトを作成する開発者や、アプライアンスにログインせずにローカルでヘルプにアクセスすることを望むユーザにとって便利です。

注記: 『API リファレンス』（<http://www.hpe.com/info/oneview/docs>）を参照することもできます。

手順 4 HTML UI ヘルプと HTML REST ヘルプのダウンロード

1. Enterprise Information Library を参照してください。
<http://www.hpe.com/info/oneview/docs>
2. 『HPE OneView オンラインヘルプおよび API リファレンス（ダウンロード）』の zip を選択し、自分のコンピューター、または Web サーバー上のローカルディレクトリに保存します。
3. 任意のユーティリティを使用して、.zip ファイルの内容を抽出します。
4. コンテンツディレクトリに移動します。
5. index.html ファイルをダブルクリックして HPE OneView ヘルプシステムを開きます。

B インストールの問題のトラブルシューティング

この章では、HPE OneView のインストール時に発生する可能性がある問題と、考えられる解決策について説明します。

B.1 OVA ファイルを展開できない

症状

「The OVF package is invalid and cannot be deployed」というメッセージが表示される。

解決策 1

原因

選択されたパスに OVA ファイル名が含まれていません。

操作

OVA ファイルディレクトリに存在する OVA ファイルの完全なアドレスを指定する必要があります。完全なアドレスには、ディレクトリ、ファイル名、およびファイル拡張子が含まれます。ディレクトリのアドレスのみを指定した場合、このメッセージが表示されます。

解決策 2

原因

FTP ファイル転送モードがbinaryに設定されていません。

操作

転送モードをbinaryに設定して転送を再度実行してから、チェックサムを確認します。

解決策 3

原因

ファイルが破損しているか、部分的にダウンロードされた可能性があります。

操作

ダウンロードを再度実行し、チェックサムを確認します。

B.2 ログインできない

症状

アプライアンスに初めてログインするときに、デフォルトの認証情報で失敗する。

原因

アプライアンスがすでに構成されており、デフォルトのパスワードが変更されています。

操作

1. 初期セットアップを実行した管理者に連絡し、新しいパスワードを取得します。
2. インストールプロセスをもう一度開始します。

B.3 アプライアンスがネットワークにアクセスできない

症状

アプライアンスがネットワークにアクセスできない。

原因

アプライアンスネットワークが正しく構成されていません。

操作

1. アプライアンスに ping を実行します。
2. VM コンソールから、ネットワーク構成が正しいことを確認します。
3. VM コンソールから、DNS IP アドレスが正しいことを確認します。
4. VM コンソールから、DNS サーバーが実行されていることを確認します。

B.4 VM ホストのパフォーマンスが低下している

症状

アプライアンスのパフォーマンス不足。

解決策 1

原因

ホストマシンの電源管理が有効になっています。

操作

1. ホストマシンでパワーセービングが無効になっていることを確認します。
2. より強力なチップセットを搭載したホストマシンの使用を検討します。

解決策 2

原因

ハイパーバイザーホストの I/O パフォーマンス不足

操作

- RAID 構成を確認してください。RAID 構成は低速な I/O の原因となる場合があります。
- VM をホストしている可能性のある SAN ストレージへの帯域幅を確認します。

B.5 vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない

症状

アプライアンス VM が再起動せずに、vSphere 仮想コンソールに「The superblock last mount time is in the future UNEXPECTED INCONSISTENCY; RUN fsck MANUALLY.」というエラーが表示される。

原因

アプライアンスでNTPを使用しておらず、VMホスト時刻が間違っ過去時刻に設定されています。

操作

- VM ホストの時間設定を正しい時間に再度設定し、VM アプライアンスを再起動します。詳しくは、vSphere のドキュメントを参照してください。
- アプライアンスまたは VM ホストが NTP クライアントとして構成されている場合、NTP サーバーが正しく動作していることを確認します。

注記: アプライアンス VM を管理する場合の推奨ベストプラクティスについては、「[VM アプライアンスを管理するためのベストプラクティス](#)」(20 ページ)を参照してください。
